AIと一緒にプログラムをつくる

AIにプログラムを書かせるとき、人は何を考え、何を確かめるのだろう

例（架空）：教室の温度をはかり、28℃をこえたら知らせるプログラムをつくる

1 実現したいことを考える
何のために、何をしたいか。
例：熱中症を防ぎたい
人

→

2 課題や条件を整理する
AIに任せること・自分で
すること。例：28℃・音で
人

→

3 AIに指示する
考えた手順のとおりに
動くよう、言葉で伝える
AI

↓

4 できたものを確かめる
目的どおりに動くか、
ほかへの影響はないか
人

→

5 試しながら直す
温度を変えて試し、
まちがいを見つけて直す
人＋AI

→

6 責任をもって判断する
使ってよいかを決め、
問題を解決する
人

AIに任せても、人が分かっていること

・プログラムの基本の形（順次・分岐・反復）を読める

・センサーの値と条件（28℃をこえたら）が正しいか

・テストのしかた（温度を変えて試す）

・安全・個人情報・ほかの人への影響

気をつけること

・AIが書いたプログラムにも、まちがいや
危ない処理が入ることがある

・読まずに、そのまま動かさない

・できたものの責任は、使う人が持つ

※ 模式図。例は架空。段階は次期学習指導要領の審議の資料（案）の考え方による。